

8-3-5 建設コンサルタントの新たな役割 検討WG

1. 主な活動の記録

(1) WG の開催

WG 開催回数：6回

(企画委員会と同一日に開催)

(2) WG の活動内容

当 WG は、中期行動計画（2019～2022）の施策「1-1 社会資本整備のあり方と建設コンサルタントの役割の提案」を担当し、国民ニーズと社会環境の変化を踏まえて、今後の社会資本整備のあり方や建設コンサルタントの果たすべき役割を検討し提案することを目的としている。

2019年度は2050年までの世界及び日本の未来予想（人口、経済、科学技術、気候変動、エネルギー、インフラ、宇宙等）を文献等より整理し、今後の社会資本整備のあり方と建設コンサルタントの役割について議論を行った。

a) 2050年までに日本で起こりうる主要な出来事

- ・人口・生産年齢人口の減少
- ・労働の代替としてのAI、ロボットの発達
- ・自動運転技術の発達
- ・UAVによる配送サービスなど、UAV技術の普及
- ・気候変動
- ・災害の発生の増加
- ・再生可能エネルギーの普及
- ・リニア開業等鉄道網の増強
- ・インフラ老朽化
- ・維持管理、更新費の増加

b) 今後の社会資本整備のあり方の議論

国土利用の大再編として、下記の意見があった。

- ・居住、産業、農業、エネルギー、自然保護・再生等の利用区分による再編・集約化
- ・各インフラの統合化
- ・国土保全、防災、経済活動を優先したインフラの取捨選択

c) 建設コンサルタントの役割の議論

建設コンサルタントの新たな役割として、下記の意見があった。

- ・地域インフラのマネジメント
- ・新規プロジェクトづくり
- ・事業投資
- ・事業主体
- ・BtoC と BtoB
- ・アセットマネジメント
- ・情報提供・アドバイザー

2. 次年度の活動について

本年度の議論を踏まえ、以下について検討する。

- ・今後の社会資本整備のあり方検討にあたっての課題の整理
- ・今後の社会資本整備のあり方検討
- ・建設コンサルタントの新たな役割検討

(建設コンサルタントの新たな役割検討WG
WG長 村上 広)